

長時間ビデオ脳波モニタリング検査 (VEEG) が治療に有用となった一症例

◎佐藤 華怜¹⁾、吉富 博人¹⁾、瀬尾 修一¹⁾、濱本 将司¹⁾、長谷 一憲¹⁾、秋永 理恵¹⁾
飯塚病院¹⁾

【はじめに】長時間ビデオ脳波モニタリング検査（以下 VEEG）は、異常波の有無や発作焦点の確認、発作時の臨床症状をビデオにて確認することが出来る。また、長時間の記録により、通常脳波検査よりも異常波の検出率が上がり、発作間欠時の異常が記録できる場合もある。今回、VEEGにより通常脳波では得られなかったてんかん性異常波を確認することができ、治療に有用となった症例を報告する。【症例】てんかん発作疑いで当院フォロー中の3歳女児。今までの通常脳波検査では異常所見無し。今回、無熱性けいれん発作疑いで当院に救急搬送。血液検査、頭部CTで特記所見なし。緊急性はないと判断され帰宅したが、再度てんかん発作を認めた為、翌日、通常脳波検査を行った。【脳波所見】通常脳波にて、有意所見無し。頻回にてんかん発作を認めたため、同日 VEEG を施行。VEEGにて全般性に広がる律動的な突発性異常波の群発が認められた。【治療経過】VEEGにて異常波を確認できた為、てんかん発作型に応じた抗てんかん薬の投与が行われた。後日、2回目の VEEG が行わ

れ、体のびくつきとともにてんかん波が認められた為、抗てんかん薬の調整が行われた。この後、さらに詳しい診断をするために、遺伝子検査などの追加検査目的で転院する運びとなった。【考察】通常脳波でのてんかん波検出率は1回の検査では約50%と低く、繰り返し記録することで、その確率が上がるという報告がある。本症例では通常脳波記録でのフォローや、てんかんとしての治療は行っていたが、てんかん波の検出には至っていなかった。VEEGで検査開始から約16時間後に30秒ほど持続する全般性に広がる律動的な突発性異常波の群発が認められ、より適した投薬の調整を行うことができた。VEEGは長時間ビデオ記録することで発作の頻度や身体状況を確認でき、どういった状況下で発作が発現しやすいかを把握できることが強みでもある。臨床状況により、強くてんかんを疑う場合や、薬の調整が必要となる場合は、積極的な VEEG が必要だと考える。

【連絡先】飯塚病院 中央検査部 生理検査室
0948-22-3800(内線 5261)